

弱肉強食の復活

—2026年の世界

順天堂大学特任教授・東京大学名誉教授

藤原 帰一



- *ブレデターに変わってしまったアメリカ
- *相互依存の強い友好国から収奪する関税戦争
- *政策リポート「プロジェクト2025」の衝撃的内容
- *アパルトヘイトが起こりつつある
- *大国による小国支配を肯定するトランプ
- *指導者の排除が紛争を広げる「介入のジレンマ」
- *アメリカなきNATOが作られていく
- *米中グランドバーゲンと日本
- *「長いアメリカの世紀の終わり」が現実になり
- *日本が果たせる役割は貿易秩序にあり

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

新年おめでとうございます。今年もよろしく
お願いいたします。お正月はいかがお過ごし
でしたでしょうか。

国際情勢のほうは、ベネズエラへのアメリカ
の軍事侵攻があつて、大統領がアメリカ本国へ
拉致されるといふ衝撃的な事件が起きました。
それから、最近ではアメリカから国連の国際機関
や国際条約から脱退するといふ発言もありまし
て、大統領がサインをしたといふことも報じら
れております。明日は最高裁が世界を揺るがし
ておりますアメリカの関税について、正しいの
かどうか判決が出るということで、正月早々か
なり慌ただしく、それも過激化、加速化して事
態が動いていると思えます。そういう中で、今

日は藤原先生をお迎えしており、非常にいいタ
イミングでお話を伺えると思っております。

昨年刊行された『世界の炎上』という先生の
ご本があります。伺ったところ、15年間朝日新
聞の「時事小言」を書いていらして、2年前に
『不安定化する世界』というタイトルで本を出
されております。昨年はそれが『世界の炎上』
になったので、私はさうとう過激なタイトルが
ついたなと思つていたのですが、事態がこれに
追いついてしまい、実際に炎上してしまつてい
る、過激化している、さういふ状態になつてい
ると思えます。

先生の本の後書きに、国際政治の問題を語る
ときに、入手できる情報に制約があつて、それ
から現在起こっていることについて書かれたこ